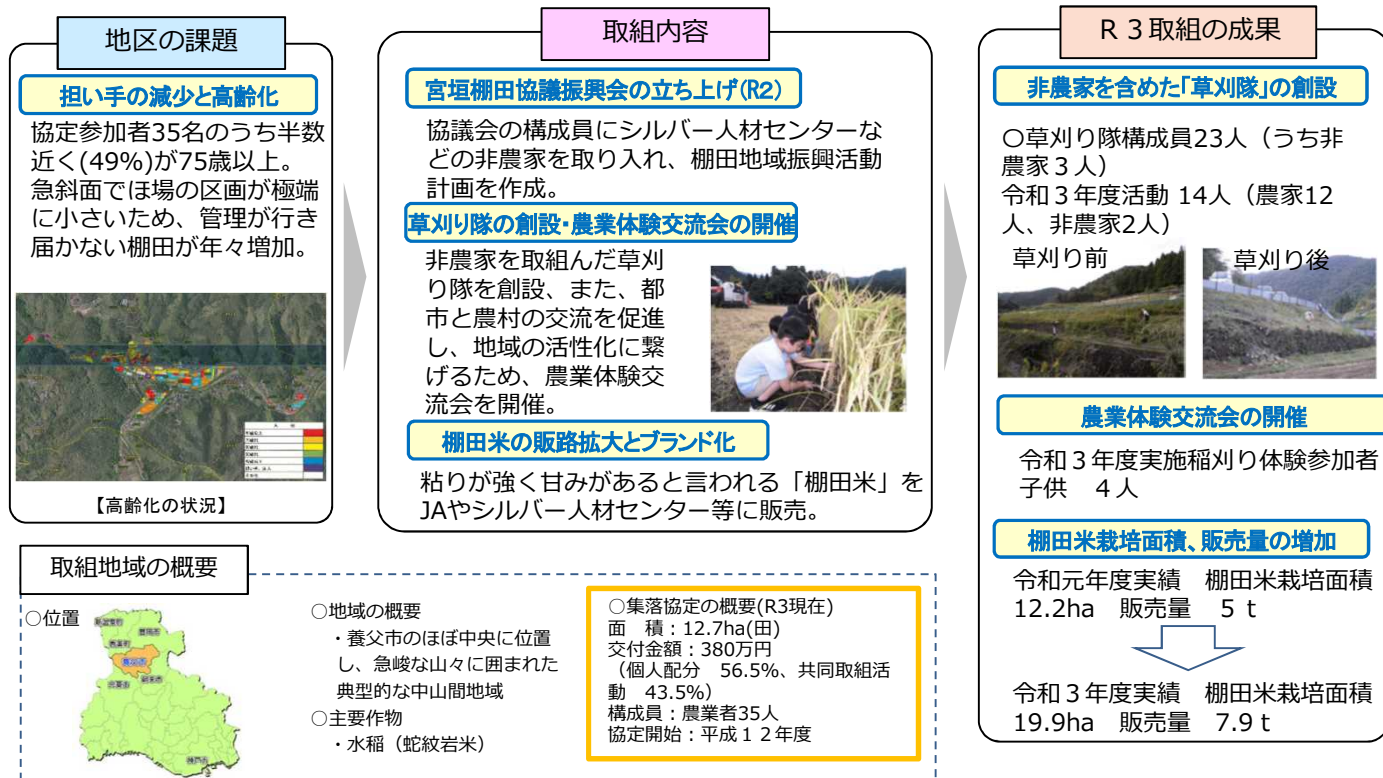


非農家を巻き込んだ「農地を守り、農村の未来へつなげる」ための体制づくりと棚田振興の取組

- 非農家の方の理解の醸成に重点を置き、農道・水路の草刈りを協同活動として位置付け、草刈隊を編成。
- 非農家が共同利用の機械を活用するなど水稻栽培にも参加し、営農面積を拡大。



1 地区の概要

(兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、蛇紋岩地帯の土壌とそこから流れ出る水による食味値の高い蛇紋岩米を生産)

——地区の概要を教えてください。

宮垣地区は養父市のほぼ中央に位置し、蛇紋岩地帯である天満山の豊かな土壌とそこから流れ出る天満谷川の水を用い一般的に食味値が高くおいしいとされ高値で取引されている蛇紋岩米の生産を行っています。当地区は約75世帯でそのうち農家数は30世帯となっており、分譲地の造成で世帯数は一定数増えたものの、農家数は減少傾向にあります。

2 地区の抱える課題

(農業従事者の高齢化、後継者不足、圃場の未整備、鳥獣被害の増加を背景に農地等の保全管理の継続が困難)

——地区の課題を教えてください。

急峻な山々に囲まれた典型的な中山間地域であり、協定参加者35名のうち半数近く(49%)が75歳以上と農業従事者の高齢化、後継者不足がすすんでいます。

一部は圃場整備が実施されていますが、地形が急峻なため圃場整備が不可能で未整備の圃場で生産を行っている農家も多いです。圃場の区画が極端に小さいため、機械を導入しづらく、労働生産性が低い状況にあります。

野生鳥獣による農作物の被害が拡大し、水路、農道等の施設の維持が困難な状況です。

3 取組の経緯

（現状に危機感を持った代表が、市に相談し、棚田振興で農村を守る方向性を検討）

——取組の経緯を教えてください。

棚田振興法に基づく棚田振興に取り組もうと思ったきっかけは、農家数が減少傾向にあり、次世代の農家が育っていないことを中山間地域等直接支払交付金の代表者（元商工団体の関係者で集落の役職を歴任し、農地を守ることが集落の活性化に繋がると考える代表）が危惧したことからです。このままの状況が続けば、集落としての維持が難しくなってしまいます、農村を守っていくためには、農家だけでなく、非農家の協力も必要でそのためには集落全体の意識改革が必要です。非農家を含めた「協同活動」として、農道等の草刈りを行える仕組み作りをしたいと考えたのです。

棚田振興法に基づく指定棚田地域振興活動計画を作成し、認定を受ければ、農林水産省だけでなく、各省庁の事業を活用できると聞き、行政（養父市）に取り組みたいと相談にいき、行政（県・養父市等）と相談しながら、協議会設立に向け準備を始めました。

4 取組の内容

（「宮垣棚田振興協議会」を設立し、地区をあげて棚田振興に取り組む）

——取組の内容を教えてください。

令和2年12月に宮垣棚田振興協議会を設立。指定棚田地域振興活動計画を作成し、令和3年度より中山間地域等直接支払交付金において、棚田地域振興活動加算の交付を受け活動しています。

協議会の構成員には、シルバー人材センターなど、非農家を取り入れ、令和3年5月に兵庫県内ではじめて、棚田地域振興活動計画が認定されました。

構成メンバー：区、集落協定、農地水環境保全隊、農会、養父市シルバー人材センター、養父市

5 取組の成果(R3)

（棚田地域振興活動加算目標を初年度に達成）

——取組の成果はありましたか？

草刈り隊構成員23人となりました。うち非農家は3人です。

草刈り隊活動実績（10月24日：14人（農家12人、非農家2人））

栽培面積は19.9ha、販売量は7.9tとなりました。主な販売先は、JA、シルバー人材センターでした。

稲刈り体験会の活動実績（9月25日：稲刈り（こども4名））

【（参考）棚田地域振興活動加算達成目標】

○棚田等の保全：非農家や若い世代を含めた多様な担い手による草刈り隊を創設し、令和6年度までに構成員の総数を15人以上とする。

○棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮：棚田米の栽培面積1.75ha、販売量を2t以上（5t⇒7t）増加させる。

○棚田を核とした棚田地域の振興：農業体験会を開催し、参加者を年間5人以上確保する。



6 人材、資源、制度の活用方法、工夫

(中山間地域等直払交付金と多面的機能支払交付金を活用し、「人財」として非農家を取り込むほか、シルバー人材センターとも連携)

——中山間直払や地域の資源はどのように活用していますか？

これまでも宮垣地区では非農家へ協同活動への協力をお願いしてきました。もちろんボランティアではありません。しっかりと日当を支払っています。このようなときに、中山間と多面的の交付金事業は欠かせません。

サポーターという意味では、養父市シルバー人材センターには、農地の保全・維持に大変お世話になっております。今後とも、協力関係をしっかりと維持していきたいと思います。

7 苦勞した点、克服方法

(非農家を含めた草刈隊の編成等を通じ、地域全体の意識醸成を図る)

——取組を行う上でどのようなことに苦勞しましたか？

協議会の活動計画の中に、非農家を含めた草刈隊の編成を挙げています。令和3年度、呼びかけを行ったところ、23人態勢の草刈隊を編成することができました。非農家にとっては、まだまだ慣れない作業があると思いますが、一緒に農村を維持しているという意識が少しでも浸透してくれば、ありがたいと考えています。

非農家が農業を始めたいということで、共同所有していた農機具を活用し、農業を始められた実績もあります。今後も、このような取り組みを増やしていくためには、中山間と多面的の交付金事業は欠かせませんが、より柔軟な交付金運用が必要と考えます。自立というものも考えなければならないですが、現状では、交付金事業を活用した農村維持というのが限界のように思っています。

8 地区の今後について

(都市との交流人口を増やすための情報交換を図りたい、宮垣ファンのサポーターを増やしたい)

——地区の今後について教えてください。

今後、農業体験会を開催し、都市との関係人口を増やしていきたいと考えています。是非、なにか良いサポーター事業がありましたら、教えて頂ければと思います。

宮垣の非農家世帯に、宮垣のお米を食べてもらっています。区民一人一人が、地域内・地域外で「宮垣のお米は美味しい！」と宣伝する、そんなサポーターが増えていくようにしたいです。宮垣のファンがたくさんできたらありがたいです。